

新聞新報

2005年(平成17年)7月20日 水曜日

「中央構造線でM8」なら

関空など震度6強以上

調査委予測

政府の地震調査委員会は19日、日本最長の活断層・中央構造線の東端部(金剛山地東縁)和泉山脈南縁)でマグニチュード(M)8・0程度の大地震が起きた場合に予想される各地の震度を分布図にまとめ、発表した。関西国際空港がある大阪府泉佐野市など大阪、兵庫、和歌山の14市町が震度6強以上の揺れに見舞われる可能性が高いことがわかった。

想定された地震で、ずれ動く地下の断面は、長さが東西60キロ、幅16キロ。和歌山県北部から大阪府南部の方向に沈み込むように傾斜している。震度分布図によると、震度6強以上が予想されるのは、泉佐野市や大阪府泉南市など大阪湾に面した自治体。大阪市も震度6弱〜5弱となる。

中央構造線は、奈良県西部から愛媛県北部の伊予灘まで延長360キロ。今回はそのうち東端の約70キロを分析した。この区間で今後30年以内にM8の地震が発生する確率は5%で、全国の活断層の中でも「大地震が起る確率が高いグループ」に分類している。

山古志の避難解除4集落の一部で 週内にも 新潟県中越地震で全住民約2200人が避難していた。長岡市山古志地域(旧山古志村)の一部で、早ければ今週中にも避難指示が解除される見通しとなった。住民にとっては昨年10月以来、約9か月ぶりに我が家での暮らしが戻るが、市は避難指示解除後も、帰宅する住民に事前の届け出を義務づけ、一般の立ち入りは禁止する方針。復旧作業はまだ始まったばかりで、帰りたくても帰れない住民も少なくないとみられる。指示が解除される見通しとなったのは、全14集落(690世帯)のうち種芋原、虫亀など4集落(528世帯)の一部。